

令和4年度 第1回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 令和4年7月20日(水)  
午後1時30分～午後2時30分

開催場所 緑水湖研修センター 大研修室

出席者 陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員、畠教育委員  
土江副町長、福田教育長

事務局 大塚総務課長、岩田教育次長、水嶋総務・学校教育課長、加藤課長補佐

書記 人権・社会教育課 大塚課長補佐

傍聴人 なし

	【1. 開会】
大塚総務課長	開会 午後1時30分
	【2. 挨拶】
陶山町長	コロナが猛威を振っている、この3年間の影響をどう考えていくのか、非常に厳しい状況が続いている。
	【3. 意見交換】
土江副町長	1)「中学校部活動」について まず、総務・学校教育課から説明をいただく。
加藤補佐	資料の説明 資料に基づいて、中学校部活動の現状と課題を説明する。
土江副町長	教育委員から順にご意見、ご提案をお願いします。
板委員	総合型地域スポーツクラブから見ると、中学生との関わり薄い。小学生はジュニアチームの関わりがあり、そこまでは濃くつながっているが、中学は部活動にシフトしていくため。スイミング・ダンス・丸谷サッカーなど20名ほど中学生が利用。プールが狭いのもっと練習させたいが、活動しにくい状況で利用者は米子に流れている。働き方改革などで全国的な見直しがある中、子どもも大人も身近な地域で活動できるといい。休日は地域の指導者という考えだと、大会を目指す時にどちらを重点とするのかという問題も出てくる。可能な種目はクラブチームの立ち上げを行いながら、地域のチームとして一貫指導する。剣道・テニス・ソフトボールは一貫で、バスケ・サッカー・野球は外部指導者と、できるところからしていくべき。地域に出すと保護者負担が増えていくことになるが、生活の厳しい家庭をどう手当するのか。ジュニア・マスターズへの支援を一緒に進めていけるとよい。
陶山町長	支援について、税金で手当ですることが良いのか、使い方に悩んでいる。住民がクラブスポーツの議論をしていない。住民のみなさんと議論したり、伝える機会を持つことをするタイミング。町民のみなさんに丁寧な説明も必要になるのではないかと感じている。
瀬田委員	切実な問題である。子どもが中学の時、バスケットボール部を作ってほしいとお願いしたらバレーボールがなくなり、バスケットボールができた。顧問の先生が経験者でなければ、結果も伴わない。クラブチームの立ち上げは、スポーツ振興のもとになる。子どもたちの目線に立って、部活動を考える必要があるのではないか。
井上委員	部活動は学校のもので、部活動とスポーツクラブを一緒にしてはいけない。以前、一部の人がしかレギュラーになれないと保護者からの不満があり、外部指導者はなくなった。また、高いレベルの指導者が必要になるのでは。経験のない人が指導するとき、高みをめざす者にどう指導していくか。技術・身体のケアなど教えていく。基礎を教える人を集め、

	指導の内容が合致するかどうか確認も必要。土日のみ地域へというのは指導の一貫性から難しい。また、指導者がいるのかも心配である。
福田教育長	部活動は教育活動の一部として捉え、「技術指導」と「仲間づくり」の二面を持つと考える。今のままでは難しいが、どうすれば地域は受け入れができるのか。国は県に、県は町にそれぞれがんばれというが、部活動の一言でくれる状態ではない。教員不足、時間外の問題、部活動は持ちたくないなど様々な考えの教員がいる。PTAとの話など、できることをやってみる
	部活動についてはこれからが移行期であり、今までと同様に関わりたい先生もいる。一部の郡部ではすでに成り立たなくなっており、子どもたちのスポーツをする気持ちをどう守るか。今までは学校だけで完結していたが、これからは学校だけではできないという悩みもある。
畠委員	合同チーム、少子化の中で子どもはどう考えているのか。移動や合同練習はどう考えてやっているのか。制限された部活しかないのでは残念。希望する部活がない子はどうするのか。
加藤課長補佐	現在の部活動の全員加入について、令和5年度は自由参加とし学校で検討している。参加したいスポーツはあるが自校にはない、など悩みもある。様々な点で検討しながら「部活動改革」を実施していきたい。
陶山町長	学校・社会の潮目が変わっている。学校体育の本質を考える時期にきている。10年、20年後の子どもたちに、過去の部活動ではなく、新しいものを考えていく必要がある。
板委員	今まで学校が学校だけでがんばっている。地域が入り込む余地がない。地域が良い機会として主体的に動けたらいい。OBの地域で関わる時間が、地域の子どもを育てていく。関わる時間を持つことで、町へ子どもたちが帰ってくる種まきができればいい。
井上委員	町でチームを作るのは、クラブチームでもよいのか。
福田教育長	少子化で成立しない状況の中、全中(全国中学校)が認めている。今後、県代表はクラブチームというようなことも現実に想定できる。
陶山町長	価値観の共有をしておく必要がある。
福田教育長	教育活動は本来、希望者で行われるべき、競技力向上や選手強化のみが目的ではない。
板委員	小学3校、中学2校の移動が大きな負担になる。移動手段が交通課題として出てくる。
陶山町長	根本から考えないと進まない。今は土日だけとしているが、次の段階も考える必要がある。制度設計も含め、何のためにするのかをよく検討してほしい。
	2)各教育委員より
土江副町長	教育委員からご提案があれば、お願いします。
井上委員	教員が不足している状況はあるのか。採用者数も減っているようだし、学校は大変。教員数を増やせば、多い人数の中から選ぶこともできる。人材を育成する重要な役割を担う人材であるため、多くを採用できるようにしてほしい。
土江副町長	最後に教育長から総括をお願いする。
	【4. 挨拶(総括)】
福田教育長	部活動は国の旗振りで、規模の小さな町村は大きな影響を受けている。令和5年からの3年間で検討していく。子どもたちの活動は確保したい。吹奏楽部と国立音楽院など、地域とうまく連携していく形も考えたい。教員不足については、教員という職に魅力がないのが一番の問題。今年度も全県で不足している。学校現場は本当に大変である。
陶山町長	コロナで修学旅行など縮小となり、平和学習ができていない。ぜひ取り組みをしてほしい。
	【5. 閉会】
	閉会 午後2時30分